

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	390100188		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホームあつたかいご神子田マルシェ(しずくユニット)2F		
所在地	020-0826 岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100188-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100188-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年10月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビング、ゆったりと楽しく、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭に畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしが出来るように支援しております。また、訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。夏祭り等の協力や町内の避難訓練参加など、地域のつながりも持ちながら、会社としての理念の「共に和み、共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざし、安全で快適な暮らしが出来るよう、職員一人一人の質の向上を図りながら取り組んでおります。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士が信頼し合い、助け合って日々のケアに当たり、また上司とも話しやすい体制で、働きやすい職場の雰囲気を感じる。また、地域の方々との関係も良好である。看取り対応を行うことを明示しており、10月には、1名の方を医療(訪問診療、訪問看護)連携により、職員も協力し、看取りを行い、遠方の家族から感謝の言葉を頂いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を理念に掲げ、ご家族様、地域社会、行政等々との調和と融合で、利用者様が安心して過ごして頂ける様、「心・和・楽・笑」を職員間の共有理念にし、共に日々成長できるように全職員で業務に取り組んでおります。	会社の理念と共に職員皆で考えた独自の理念を共有し、玄関に貼り出し、全員が成長するよう目指している。	職員皆で考えた理念であり、皆が日常の業務に活かす工夫が必要と思われる。また、自己評価に職員全員が関わることの重要性を今一度考え、取り組んでいくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしたり、ホームの行事への参加を促したりしながら地域とのつながりを大切にし、声を掛け合いながら交流を深めている。	町内会の避難訓練には利用者と共に参加している。また、ホームで実施した夏祭りへの参加を呼びかけて、多数の方々(子供も)に参加して頂き、子供会行事には事業所も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、施設での介護体験談、地域の方々の家庭での介護体験談を通して職員の実務経験や知識が役立てられるよう相談、助言にあたり、相互に役立てられる支援方法を模索しあっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに開催し、利用者状況や施設の取り組み状況・今後の取り組みや行事等の中で意見、助言を頂いて改善等に努めている。	介護保険制度の変化について話し合いながら、家族の意見や要望を聞き取り、「献立表を家族に提示する」「職員の異動や変化の際には職員全員の顔や名前表を作成し貼付する」等改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や認定調査等の関わりや相談に乗って頂いたり、運営推進会議での報告や施設新聞等を届けて実情報告などを行っている。	利用者の転倒事故事例があり、地域包括支援センターとの関わりがあった。また、推進会議の会議録、申請書を持参した際に、窓口の方との話し合いを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修参加や施設内会議で、研修報告や身体拘束の内容とその弊害の再認識、再確認を行ない、身体拘束をしないケアの実践方法を話し合い、全職員で共通の認識を持ち、安全で自由な暮らしができるよう努めている。	事故防止のため、「ドキットノート」(ヒヤリ・ハット以前の状況を記載)を作成すると共に、事故防止検討会議では全員が参加し、話し合っている。また、言葉の拘束についてその場で注意し対応すると共に、職員間で事例研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止資料などを参考にして内部研修をしたり、研修参加などで全職員で共通認識を持ち、介護にあっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいご神子田マルシェ(しずくユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を得た職員が、職員会議や地域推進会などで内容や活用法など話し合いを持つ機会を作り、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に契約内容をご家族に十分に理解把握して頂ける様に分かりやすく説明し、また入居中、入院、退居時など、その都度相談を受け、疑問点などにも理解納得いくよう、すみやかに対応を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族に参加頂き、生活や活動内容を把握して頂き、面会時等も含め、意見や要望などを話しやすい雰囲気を作りながら、参考にさせて頂いたり、要望にも出来る限りの対応を行なっています。	職員の情報、献立報告、等の意見がある。遠方の方を除き、家族の訪問は多いので、来訪時には、話をすることを心がけ、意見の聞き取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議の会議録は回覧し意見交換をしたり、会議の中や普段でも感じた事等の意見・要望は聞き、運営に反映できるようにしている。	職員会議は月2回、事故防止検討会議は月1回持っている。また、会議以外でも意見を言える体制もある。職員については現在は充足している。事業所内の公園に東屋(あずまや)の設置を本部へ要望している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部会において、施設の現状、職員勤務状況等や個別面談での職員の声や状況を伝えている。キャリアパスを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談にて、個々の職員の現状での体調、働く意欲、研修希望、資格取得、認知症の理解度等を把握し、ユニット異動や施設内研修や外部研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入していることで、研修の機会や同業者との交流を図れる事ができ、相談や取り組みの参考や思いの共有など、意欲やサービスの質の向上に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様との入居前面談、見学時、入居時等において書面情報やご家族様からの情報のみならず、ご本人様の気持ち、意向をくみ取る事が出来る様に安心して心を開いて頂ける様な接し方を心がけております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活介護状況、ご苦勞、入居へ至る経過、お気持ち等への傾聴、理解に努めております。入居後に関して不安な事やご要望なども遠慮せず口にして頂けるような関係性を心がけております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の心身状態の把握に努め、ご家族様への報告・相談・助言の上、支援内容を決めたり、変更したりと対応されて頂いています。他のサービス内容についても、ご要望を受けたり、提案させて頂いたり対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている家族の一員として、お互い支えあいながら、喜怒哀楽を受け止めあい、毎日を過ごしております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活と心の安定を図れるように、ご家族様と気持ちを共有し、一緒になって支援の形を考えていきたいと思っております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へは、ご本人様との会話の中で口にされていた方のお名前や場所等を伝え、家族様より話を伺ったり、ご友人知人様等との面会や外出を気軽にして頂ける事も伝えている。	ドライブ、買い物など利用者との会話から馴染みの先を知り得たりしている。昔の話から、以前住んでいたところ、知り合いの家等をドライブで訪ねている。友人の名前を聞き、家族と相談しながら来訪していただけるように努力もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に過ごされる時間、空間も大切にしながら、協同生活している入居者同士が会話や関わりを密に持てるような場面設定や環境整備を心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様からの相談や支援に努め、経過の見守り、関係性を持續していきたいと思っております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活において、お一人お一人の関心事や、嗜好、要望などを把握出来る様にお話を伺ったり、声なき声に耳を傾け、新たな発見も出来る様、全職員で入居者様の言動に注意を払い、伝えあい、意見だしあって、支援に結ぶ付けている。	連絡ノート(申し送りノート)を活用し、細かな出来事も記入し、全職員で思いの把握に努めている。言葉等で表現出来ない利用者は、様子、態度、顔の表情で理解をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にお聴きした前情報の他にも、後に伝え聞いたことなども連絡ノートに記載したり、会議にて情報交換共有を行ない把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方、心身状態の変化等について、細かく介護記録に記載を行なうようにし、個々の総合的な現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や状態変化時等、常にご家族と連絡を取り合い、意見要望をお聴きし、主治医の意見や判断も参考にしながら、職員間で意見を出し合い、介護計画作成に結び付けている。	利用者は職員担当制であり、モニタリングの上、職員会議(チーム毎)にて話し合い、介護計画書を作成している。必要に応じ、医師の意見も参考にし、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、食事の仕方、歩行状態、精神状態、過ごし方、睡眠状態、会話内容など細かく記載し、他に排泄、食事水分量記入や連絡ノートにて介護の工夫や共有事項等取り組みを行ない、介護計画作成、変更反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態や、ご家族の状態などにより、その時のニーズに応じて、往診クリニックや訪問理容、マッサージなど、提案させて頂いたり、ご要望に応じて対応している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいご神子田マルシェ(しずくユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関連機関と、安全でより豊かな生活を営むことが出来るように関係を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前の主治医との関係を維持していけるように、受診は基本ご家族様支援で行なっているが、入居者様の状態、家族様の状況変化によって困難になってきた場合においては、ご相談にその都度応じている。	利用者と家族のつながりを大切にと、月1回の通院介助は家族へお願いしている。主治医は従前通りの方が多い。家族が遠方にお住いの利用者は、事業所協力医に変更して頂き、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や観察、ケアのポイント指導、異常時や緊急時の対応を行なっている。状態変化や異常発見時の連絡体制も取っており、常に介護職員と情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、面会をすることでご本人様の心の安定を少しでも図れるようにしている。また、ご家族様の了解を得て、医療機関に対して情報提供やケアについての話し合いをしている。治療プランや退院に向けての情報を頂き、病院関係者やご家族様と連携を持ちながら支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時にはご家族様へこちらで出来る事の十分な説明を行ない、状態変化には医療関係者やご家族様と方針を共有し、連携して支援を進めている。	契約時、看取りの希望があれば、支援している。往診医と家族、職員の協力で、10月に利用者の看取りを経験した。職員会議で看取りに入る旨伝えつつ全員が協力した。看取りマニュアル、体制整備が構築されている。今後も家族の要望に対応できる体制を作っていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成したり、内外部の研修に参加したりしている。実践力を身につけるため、定期的に訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行なっている。地域の方々の協力を得られるように話し合いを持っているので、合同避難訓練に結びつけたい。町内会の避難訓練には毎年参加し、連携が取れるよう協力体制を築いている。	6月夜間を想定して(日中11時から)避難訓練を実施した。特に、近隣の方々には通知しなかった。備蓄は缶詰、乾麺、水はスポーツドリンクを用意している。	住宅地の中の事業所であることから、非常時の際は近隣の方々の協力を得つつ、利用者の安全を考えていくことに期待したい。また、2階利用者に重度、車イス利用者が多く訓練を重ねて万全を期してほしい。加えて備蓄品の見直し、補充についても望みたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で接遇についての研修を行ない、それぞれが配慮した言動で支援を行なっている。気持ちを新たにするため、再確認出来るように留意事項をプリントして掲示している。	会社主催で年1回接遇の研修会(外部講師)へ参加した。言葉遣いについて、再確認の意味合いで、留意事項をプリントして、皆が目につく台所に貼り、確認し合っている。接遇マニュアルも用意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化が進み、自己決定が難しくなっているが、日々の様々な場面で会話や表情、態度から思いをくみ取ったり、意思決定を促すように対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない様にゆったりとした中で生活できるよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類調整を心がけている。好みに合わせてお好きな物を選んで頂いている。ご家族様の了解を得て、ご本人様の意向、職員の判断で訪問理容を利用して頂いている。男性の髭そりも毎日行なっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化が進みなかなか一緒に食事の準備等が出来なくなっている。食事を楽しんで頂けるよう好みの献立にしたり、食べやすい形状に替えスムーズに食事が出来るようにしている。行事食をご家族様と一緒に頂く機会を作っている。	夏祭り、芋の子会はホームの行事として、家族にも案内し、ホーム内の庭で楽しんでいる。新年会には、寿司の出前をとって楽しんだ。食事介助要の利用者がいることから、職員は弁当持参で、時間をずらして食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の把握や、摂取状態の観察に努め、排泄、体重、状態変化時の指標にしている。個々の摂取量、食べ方、状態に合わせて、量や器、食材の切り方、介助方法など工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し、毎食後の口腔ケアや食前の口腔ケアを行ない、義歯洗浄も行なっている。必要のある方、ご希望のある方においては、月1回歯科衛生士による口腔ケア指導や訪問歯科の往診を行なっている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいご神子田マルシェ(しずくユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表や個々の排泄パターン、表情や動きを観察し、声かけ、トイレ誘導を行ない、失敗して不快な思いをしないよう支援している。オムツ使用も段階を経て、ご家族様との話し合いの上で決めている。	どちらの利用者も見守りを行っている。誘導はさりげなく、自然に行われていた。家族と相談し、オムツから、リハパン、パット、布パンへと、段階的に状況が改善された利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。主治医との連携を図り、薬の調整等を行なっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や体調に応じて、入浴して頂いている。ゆっくり気持ち良く入って頂けるよう心掛けている。	ホームの予定は1階は、月・水・金で、2階は火・木・土で、2日に一度は入浴している。ただし、入浴への拒否があれば、柔軟に対応している。対応の職員は、「早番1」が対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて過ごして頂き、適度な運動等し、安眠できる様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員管理とし、薬剤師や看護師からの服薬説明にて全職員内容把握し、服用時には必ず飲み込み確認行なっている。症状変化を観察記録し、服薬変更時には、注意事項等連絡ノートを活用し確認を行なう。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、職業歴など把握し、ご本人様の毎日の会話や行動に合わせて対応している。出来ることは支援し、発揮できるように配慮している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み外出の機会が減ってきてしまった。天候や体調をみて散歩に出掛けたり、ご家族様にも協力頂いている。	ホーム内の庭は広いスペースが有り、天気の良い日は外気浴に最適である。近隣の公園まで利用者の足で20分程度の散歩コースでもある。実家や「カラオケ」に行きたいという希望のある利用者は、家族と一緒に楽しまれている。		



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいご神子田マルシェ(しずくユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持は、金銭管理できる方に限らせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への手紙や物品郵送時などの支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁紙装飾や花を飾って季節感をだしたりしている。ソファの位置をリビングの中央に置き、入居者様が集まりやすい空間を作っている。窓からの陽光を十分に取り入れ、明るく居心地が良く一定の室温に管理をし、快適な暮らしが出来るよう心がけている。	利用者と職員で作成した秋の大型作品が掲示されている。中央にはゆったりしたソファが置かれ、食事テーブル(少人数掛け)と共に利用者の「くつろぎの場」となっている。庭に面しており、採光も心地よい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアテーブルも間隔を開けて設置したり、ゆったりと過ごせるようソファを設置したり、お一人で、また気の合った入居者同士思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みの家具や使用していたものなどを持参頂いている。転倒のある方についてはその都度、物品等に配慮させて頂いている。	炬燵、テレビを持ち込みカーペットをご自分で敷き詰め、居心地よい暮らしを楽しんでいる。どの居室も個性的で、持込の多い方、最小限の方とあるが、清潔で掃除が行き届いている。利用者と職員が共に掃除をして、足りない部分は職員が、再度、手をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など、分かりやすいように表示したり、ご家族の了解のもと、表札を付けたり、飾り付けなどを行っている。		